

## 巻頭言

### 病院機能評価

病院長 久保田 宏

終戦後から現在にいたるまで、日本の医療提供体制は一貫して量的な整備に重点が置かれてきた。しかしこの間、高齢化の進展、疾病構造の変化、医療技術の進歩などにより、医療に求められているものが、高度化、多様化し、最近では社会そのものの構造変化によって、量的に整備すること以上に質的向上の必要性が叫ばれるようになってきた。そして、地域住民に医療提供に関する正しい情報を公開し、良質な医療を提供していくことが重要な課題となったのである。

質の高い医療を効率的に提供するためには、医療機関自らの努力が重要である。こうした努力をさらに効果的なものにするには、第三者による評価を導入する必要があることは言うまでもない。

私達の病院では、全職員により平成5年から、病院運営の健全化に取り組んできた。この間、健全化の進行程度について何度か自己評価を行ってきた。しかし、それには院内での身内の評価であることから、大きな限界があり、自分達に厳しい判断はできなかった。このような時に第三者機構である日本医療機能評価機構の存在を知り、評価を受けるべく審査を申し込んだ。

病院機能評価受審の主たる目的は、現在の私達の病院を客観的にみてもらい、今後の改善すべき目標を具体化する、また、わが病院の医療機能情報を、第三者を通じて地域社会・住民に提供し評価してもらうことであった。幸いにして病院機能が一定の基準に達しているとして認定証の交付を受けたが、受審申し込み、書面審査、訪問審査を受ける過程において、職員の自覚と意欲の向上には、目をみはるものがあった。

将来に向けて病院が発展してゆくためには、地域における役割を十分に踏まえ、医療機能を高め、サービスの改善に取り組み、地域住民の理解と信頼を獲得することが不可欠である。第三者による病院機能評価は、体系的な審査により、具体的な改善項目が明らかとなり、医療の質の向上に向けて、病院職員の心がひとつになり、病院の信頼を高めるのに役立つことは間違いないと私は考えている。

平成12年4月2日